5つの基本戦略の達成に向けて
－技術開発・ソリューションサービス戦略

お客様の技術課題への「一品一様」の対応と将来に向けたイノベーション創出を両立



技術開発研究所長
永坂 茂之

当社グループが事業を通じた社会課題の解決に貢献していくため、核となるのが技術力です。その開発を担う専門部署として、技術開発研究所では、各事業部との連携を深めながら、大きく2つのミッションに取り組んでいます。

1つ目は「個々のお客様ニーズに即応するソリューションの提供」です。お客様と日々現場で向き合う事業部から寄せられるさまざまな声に対し、設計・施工会社としての強みを活かし、汎用品では対応しきれないニッチな技術課題に「一品一様」の形で応えています。大量生産・販売を前提とせず、特定のお客様に的確に応える姿勢が、私たちの差別化戦略であり、市場での信頼獲得と技術力の発信につながっています。

2つ目は「新規事業に資するイノベーションの創出」です。社内では2023年度に立ち上がったイノベーション推進委員会と連携するとともに、社外においても、スタートアップ企業を含む産・官・学とのオープンイノベーションを推進しています。既存の枠にとらわれない新たなアイデアを見出し、将来の事業の柱となるテーマの創出を目指し続けます。

「SNK Vision 2030 Phase Ⅱ」では、カーボンニュートラルやBCP対策など、社会のレジリエンス向上に寄与するテーマに注力してきました。火山灰対策のソリューションはその一例であり、病院やデータセンターなど災害時でも止めることのできない施設のニーズに応える技術を追求しています。研究テーマは所内外からの提案をもとに毎年選定し、中堅社員が主導して研究開発ロードマップを策定。所員全員で取り組む体制を重視し、次世代を担う人材育成やエンゲージメント向上にもつなげています。

現在、2027年度に稼働予定の新拠点「SNK EBINA Innovation X HIVE」への移転プロジェクトは、当社グループ内で希望者を募り、若手の意見も積極的に取り入れながら進行しています。新拠点を「共創の場」と位置付け、新たな働き方・共創スタイルを確立し、次世代のイノベーション創出に発展させていきます。

Topics 新技術開発拠点「SNK EBINA Innovation X HIVE」

新日本空調は、長野県茅野市の技術開発研究所、および微粒子可視化技術の開発グループであるソリューション事業部を移転し、新技術開発拠点として2027年度初頭に神奈川県海老名市に新たな研究所の開設を予定しています。新拠点の名称は「SNK EBINA Innovation X HIVE（エスエヌケイ・エビナ・イノベーション・クロス・ハイヴ）」。イノベーションを起こす多様なメンバーが融合（X）し、にぎやかに集いながら技術開発を行う場所（HIVE）というイメージから名付けられました。

同拠点では、環境、エネルギー、原子力関連、施工などの技術開発や微粒子可視化、シミュレーション技術によるソリューションの提供などを行います。また、当社が開発した技術の展示や最新の技術動向のわかりやすい解説を通じて、当社の技術力の高さをアピールしていきます。

さらに、「知的生産性の向上を支えるウェルビーイングな空間（社員の健康と幸福を重視した空間）」と「オープンイノベーションの促進によるポテンシャルの拡大」をコンセプトとして、AI制御や最新のICT技術を取り入れ、太陽光、地中熱、大気、雨水などの自然エネルギーと資源を活用したCASBEE-ウェルネスオフィスなどの評価認証取得やZEBの達成を目指します。

今後は、多目的ホールを併設し、社内研修に加えて、地域住民・学生・企業の皆様との交流の場としても活用することで、地域社会全体の活性化にも寄与していく計画です。



「MFIP海老名＆forest」完成予想イメージ　画像提供：三井不動産㈱

SNK EBINA Innovation X HIVE イメージロゴ

「MFIP海老名&forest」完成予想イメージ
画像提供：三井不動産（株）

基 盤

MANAGEMENT FOUNDATION

SNKの経営・戦略を支える基盤

新日本空調グループのESG経営・価値創造の実現を目指し、社会からの視点やつながりを原動力とし、持続的な企業価値向上に向けた戦略を支える基盤としての体制と取組みなどを紹介します。

CONTENTS

43 社外取締役鼎談
47 取締役／監査等委員紹介
49 役員一覧／グループ会社紹介
51 コーポレート・ガバナンス
55 コンプライアンス
56 リスクマネジメント
57 環境
59 人材
61 人権／サプライチェーンマネジメント